

# ヒト呼気による血中および肺組織の薬物動態解析に関する研究会 公開セミナー ～ 知の拠点あいち重点研究プロジェクト（I期）成果普及セミナー ～

共催: (公財) 科学技術交流財団、あいち産業科学技術総合センター

近年、人の健康状態の非侵襲検査を目指して各種の研究開発が実施されています。愛知県が実施した「知の拠点あいち重点研究プロジェクト（I期）」の「超早期診断技術開発プロジェクト」では、人が呼吸によって吐き出す息（呼気）の中に含まれるガス濃度と、生活習慣や食事あるいは疾患との関連について調査を行い、「呼気水素検知器」および「呼気 VOC 分析装置」の試作機の開発、実証試験を行いました。

(公財) 科学技術交流財団では、上述の「超早期診断技術開発プロジェクト」で得た技術シーズに、「食の安心・安全技術開発プロジェクト」で得た技術シーズを融合・発展させた研究として、非侵襲治療薬物モニタリングシステムの開発を目標とした、「ヒト呼気による血中および肺組織の薬物動態解析に関する研究会」を設置しています。

この度、同研究会の進捗や課題のほか、関連する測定技術、この分野の今後の展開についてご紹介し、次世代のモノづくりコトづくりに役立つセミナーを開催いたします。

この機会にぜひご参加いただきますようお願い申し上げます。

## 平成30年12月13日(木) 午後3時から午後6時まで

【場 所】 科学技術交流財団 研究交流センター

名古屋市中村区名駅4-4-38 愛知県産業労働センター(ウインクあいち)15階

【内 容】

15:00～15:05 開会あいさつ

15:05～16:25 「くすりは正しく飲みましょう」～その背景にある薬物動態学的解析の理論と応用～

座長 かわべ つとむ 川部 勤 氏 (名古屋大学大学院医学系研究科 教授)

演者 きたいち きよゆき 北市 清幸 氏 (岐阜薬科大学医療薬剤学大講座 教授)

くすりを正しく飲むことは誰もが望む病(やまい)の早期治癒に極めて重要です。あなたが飲んだくすりはいつまで効くのか?どのぐらいの間隔で、どれぐらいの量を飲めばいいのか?これらを解析し、くすりに応じた“用法”や“用量”を決定するための学問を我々は『薬物動態学』と呼んでいます。本講演ではその理論と実際の応用をやさしく紹介すると共に本研究会で取り組んでいる呼気を含む薬物濃度モニタリングの意義についてお話します。

16:25～16:40 休憩

16:40～17:05 「呼気による血中薬物モニタリング研究の経緯」

演者 まつしま みよこ 松島 充代子 氏 (名古屋大学大学院医学系研究科 講師)

呼気中の薬物を定量・分析し、血中の薬物をモニタリングする方法を開発してきました。その経験のなかで遭遇した研究手法の改良の経緯についてお話します。

17:05～17:55 「呼気への不揮発性化合物の排泄および非侵襲的薬物モニタリングへの応用」

演者 やまもと あつし 山本 敦 氏 (中部大学応用生物学部食品栄養科学科 教授)

血中薬物の一部が呼気に排泄されることを見出し、治療薬物の血中濃度を採血ではなく呼気で非侵襲的に測定する方法について、研究を進めるなかで得られた知見を報告します。

17:55～18:00 閉会あいさつ

【申込方法】参加申込書に必要事項を記入のうえ以下の申込先までFAXでお送りください。

【申込期限】平成30年12月3日（月）

【参加費】無料

【定員】30名（先着順）

【お申込み・お問合せ先】

公益財団法人科学技術交流財団 業務部 担当：古川  
FAX：0561-21-1651 電話：0561-76-8325



【交通アクセス】

＜愛知県産業労働センター（ウインクあいち）＞

名古屋駅（JR、地下鉄、名鉄、近鉄）より

①JR名古屋駅桜通口から

ミッドランドスクエア方面 徒歩約5分

②ユニモール地下街5番出口 徒歩約2分

FAX:0561-21-1651

「ヒト呼気による血中および肺組織の薬物動態解析に関する研究会」

## 公開セミナー

（「知の拠点あいち重点研究プロジェクト（I期）」成果普及セミナー）

## 参加申込書

平成 年 月 日

（公財）科学技術交流財団 業務部 古川 宛て

ふりがな 企業名	
所在地	〒
ふりがな 所属・氏名	
連絡先	電話 FAX
	メールアドレス

※ご記入いただいた個人情報は、セミナー情報の提供等、当財団からの各種連絡の目的にのみ利用します。

※参加受付証は発行しませんので、お申し込みの上、直接会場にお越しください。